

こだわり

あの頃から私は変なところにこだわりを持っていた。

こだわりを持つということに、こだわりを持つていたのかもしれない。今考えるとあの当時日本が一番こだわりの持っていた男かもしれない。そんな中でも一番、全裸というものにもすこく執着があった。

なぜなのか一度真剣に考えてみた事がある。私のIQの高さ故、早々に結論が出た。というより記憶がフラッシュバックしてきた。

教育だ。

私は小さい頃からほとんどを全裸ですごしている。親の教育方針の下、幼稚園にも小学校にも中学校にもほぼ全裸で通っていた。ほぼというのは、行事などの時は布切れ一枚をまとう事になっていた。最低限のマナーとして学校側から支給されていたからだ。

親はこの事実を知らないだろう。

修学旅行では他校の生徒からよく指を指されたものだ。さすがに大学生にもなると服は着ていたが、冬でも半そで短パンだった。あの頃の自分といえば全裸でいる事になんら疑問を持たなかった。むしろ、全裸でない奴を見ると馬鹿だなあ、とさえ思っていた。

祖父や父の教えでは「全裸でいることにより、より野生に近づける」ということらしい。野生に近づくという事はこだわりの中で生きる事で、動植物は皆そうしてきているとよく言っていた。夕食のときは絶対に一度はこの話が話題に上がる。まさしく今思えば先脳に近いものがある。教育＝洗脳といってしまうてもいいのかもしれない。

ある時期に人間の社会も、こだわりという名のルールのなかで存在している事に気づいた私は、矛盾を感じずにはいられなかった。

ただ祖父母や両親が30度を超える猛暑でも服を二枚は着込んでいたことから考えると、矛盾というものは納得いく結論ではある。

結局、こだわりや全裸といったものにコンプレックスを持つてしまった私は、今もそれを背負って生きている。